



明園

学校だより 第10号

令和6年3月15日発行

札幌市立明園中学校

<http://www.meien-j.sapporo-c.ed.jp>

第63回卒業証書授与式 式辞

校長 伊東 美智恵

長く感じられた冬もようやく過ぎ去り、肌を感じる風に、柔らかさと温かさが感じられるようになってきました。今日のこの佳き日に、皆さんは、明園中学校を卒業することになります。ただ今、129名の卒業生一人一人に、卒業証書を手渡しました。中学校の「卒業」、そして義務教育の「終了」という人生の節目を迎え、未来に向かって、大きく羽ばたこうとしている第63期卒業生の皆さんに、心から「卒業おめでとう」とお祝い申し上げます。その卒業証書は、皆さん一人一人の努力の証であり、3か年学んできた中学校の課程を卒業したことを認める、極めて重みのあるものです。その成長の裏には、多くの人の支えがあったことを忘れないでほしいと思います。

卒業生の皆さんはこの3年間、学習はもちろん、学校行事や生徒会活動、部活動など、さまざまな場面で、素晴らしい成果を挙げ、明園中学校の歴史に新たな1ページを書き加えてくれました。いつも一生懸命に努力する姿に対して、心から賞賛の拍手を贈りたいと思います。

「卒業」、それは希望に満ちあふれた旅立ちの時であり、それと同時に、別れの時でもあります。皆さんの心に長く残る人生の節目の時になることでしょう。この記念すべき日に、これからの時代を担っていく皆さんに、私は二つのことを強く期待します。一つめは、豊かな感性を磨いてほしいということです。これから皆さんが生きていく時代は、コンピュータや情報技術が加速度的に発達し、暮らしや社会は予測不可能なほど大きく変化していくことと思います。そのような未来を生きていくためには、明園中学校で身に付けた、人間らしい優しさや逞しさ、心の豊かさがきつと役に立つはずで、皆さんは、校外学習、宿泊学習、修学旅行、学校祭、合唱コンクール、体育祭など他にも多くの学校行事に取り組んできました。その過程では、上手いかず、挫折することもあったかもしれません。しかし、最後には、学級の仲間と協力しながら課題を解決して、大きな達成感を得ることができました。これから先、人工知能がいくら発達しようとも、自分で課題を見つけたり、仲間と協力して課題の解決に挑戦したり、挫折を乗り越えて達成する喜びを知ることは、人間にしかできないことなのです。明園中学校で仲間と学んだことを武器に、自分の感性にさらに磨きをかけていってください。二つ目に期待することは、一步を踏み出す「勇気」と「最後まで走り抜ける」強さをもって、人生を切り開いてほしいということです。公立高校入試前日に皆さんに聴いてもらったイトヲカシの「さいごまで」の歌を覚えているでしょうか。『君は決して一人ではない、いつも君を見守っている人がいる、だから、君は「さいごまで走り抜けるんだ。君だけの地図を離さず、自分の未来を自分の力で勝ち取るために』』という応援メッセージが込められています。

中学校を卒業する皆さんは、人生で初めて自分の意志で進路を選択し、その一步を踏み出そうとしています。これからの人生は決して楽しいことばかりではなく、誰もが苦しみや困難に直面するでしょう。その時には、立ちすくんだり目をそらしたりすることなく、真正面から立ち向かい、どんなにゆっくりでもいい、不器用でもいいので確実に一步一步前に進んでほしいと思います。皆さんが自分を信じて一步一步進んでいく人生は、他の人を豊かにしたり、他の人に楽しみや喜びや笑顔を与える、恵み多いものであってほしいと強く望みます。(中略)

卒業生の皆さん、4月からは新しい生活が始まります。明園中学校が望む生徒は、「より佳いものを求めて創り出す生徒」です。現状に満足せず、あらゆることに能動的に働きかけ、もっと佳いものをと追求し、思い描く「なりたい自分」になってほしいと願っています。私たち教職員も、在校生も、この明園中学校がいつまでも皆さんの原点となるよう、「明園中学校を卒業してよかった」と誇れるような学校となるよう、一層努力していきます。皆さんのこれからの活躍と健康を心からお祈りし、はなむけの言葉といたします。

送辞(送ることば)

在校生代表 2年1組 八多 伶海

今年は、寒暖差が大きく、春が近づいてきたかと思えば、また、厳しい寒さがやってくる日もあり、なかなか春の訪れを感じることができませんでした。しかし、ここ数日は降り注ぐ太陽の光にも暖かさを感じ、春らしい季節となりました。そして本日、この明園中学校を旅立ち、それぞれの道を進んでいく3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して、心からお祝い申し上げます。

先輩方との思い出を振り返ってみると、私たちのお手本となる姿勢で、何事にも挑戦し、私たちの先頭に立ってくださる姿がありました。生徒会活動では、私たち後輩に、しっかりと寄り添ってくださり、心配なところは一緒に確認してくれたり、いつも優しく接してくれた先輩方の姿しか思い出せません。私たちの中学校生活にたくさんの思い出を残してくださったことに感謝の気持ちでいっぱいです。放課後に書記局の活動をしていると、そこかしこから聞こえてくる活気溢れる声。声しか聞こえていないのに、私には、部活動に熱心に取り組む姿が、ありありと目に浮かんできました。私たち在校生も、先輩たちのように、後輩がついていきたいと思えるような姿を見せられるように頑張っています。先輩方の中学校生活は、少なからず新型コロナウイルスの影響があったと思います。しかし、それに負けずに学校祭では学年での団結力を発揮し、その姿で私たちに勇気を与えてくださいました。また、私も、68期生徒会執行委員の一員として関わらせていただいた閉祭式。生徒会テーマ「繋」を体現し、全校生徒が一つに繋がったと感じた瞬間は、今でも鮮明に覚えています。合唱コンクールでは、交流会を通して、的確なアドバイスをくださったり、私たちの目標となる姿を見せてくださったりました。私たち在校生は、皆さんのこのような姿を繋ぎ、卒業生のように、より良い学校を創っています。

卒業生のみなさん、今まで私たちに手を差し伸べ、支えてくださり本当にありがとうございました。みなさんの今後のご活躍とご健闘をお祈り申し上げ、「送る言葉」といたします。

答辞(別れのことば)

卒業生代表 3年3組 瓜生 永遠

厳しい冬の寒さも和らぎ、春の訪れを感じる季節となりました。この佳き日に、私たち3年生129名は、ここ明園中学校を卒業します。本日は私たちのためにご出席いただきましたご来賓の皆様、誠にありがとうございます。また、このような式を挙行してくださった、校長先生をはじめとする教職員の皆様、今まで支えてくれた保護者の方々にお礼を申し上げます。

思い起こせば3年前、私たちは不安と期待に胸を膨らませて入学しました。しかし、初めての行事である校外学習は、コロナの影響で予定通りに行うことができませんでした。幸い、校外学習そのものが中止になることはなく、楽しい一日を過ごすことができました。これも、日程の調整や感染対策を考えてくださった先生方のお陰です。本当にありがとうございました。

2年生になり、初めて先輩という立場になって、責任感が芽生えました。部活動や委員会活動への取り組み方が、1年生の頃とは変わったことが思い出されます。行事では、初めての合唱コンクールで3年生の先輩方の歌声を聴き、来年は最高学年になるという自覚をもちました。その時、行事でも、後輩に自分たちの姿を見せることの大切さに気が付きました。

そして迎えた3年生。大きな制限のない中での学校生活。一人一人が伸び伸びと、全力で楽しむことができました。学校祭や合唱コンクールでは、1、2年生に先輩としての姿をしっかりと見せることができたと思っています。

さて、ここまでの15年間、お父さん、お母さん、保護者の方々には、何度も迷惑をかけたことがありました。それでもいつも側で見守り、たくさんの愛情を注いでくれました。本当にありがとうございます。まだまだ未熟な私たちは、これから色々な面でお世話になると思います。もう少しだけ、甘えさせてください。よろしく願います。また、明園中で過ごした3年間は、多くの教職員の方々に関わっていただきました。私たちが進路や人間関係で悩んでいるときに、親身になって相談に乗ってくださった先生方、その温かい言葉には、何度も救われました。私たちにいつも寄り添って、時には厳しく叱り、私たちを正しい道へと引き戻してくれた先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちは今日をもって明園中学校を卒業します。ともに泣き、ともに笑い、この中学校で一緒に過ごしてきた仲間たちも、それぞれ別の道を進み始めます。これからの新しい生活でも、今までお世話になった多くの方々のご恩を忘れず、全力で自分たちの道を歩んでいきます。最後に、この誓いをもって、お別れの言葉とさせていただきます。